

令和4年度 社会科経営について

1 本校社会科のねらい

- 問題解決的な学習を通して、社会生活についての総合的な理解を図ることができるようにする。
- 社会的事象の意味や実社会の課題などを、社会的な見方・考え方を働かせながら、自らの生活と関連付け、多角的に考察し、よりよい選択・判断をすることができるようにする。
- 社会的事象の中から追究すべき問いを自ら見だし、社会の一員としての自覚を高めることができるようにする。

2 目指す子ども像

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編において、社会科では、「社会に見られる課題を把握して社会の発展を考える学習の充実を図る」ことが期待されている。

今、様々な形や速度で社会を危機に陥れる事象が、世界中で起こっている。このような課題に対して、OECD や国連が、どのような立場の人々にとっても一定の重要性があり、普遍的な性格をもつ Well-being や持続可能な開発目標である SDGs など、複数の項目や観点を示すことで、課題解決に向けて、個人や組織単位で積極的に社会と関わっていくことを私たちに求めている。

そこで、本校社会科部では、持続可能な社会の在り方を考える子どもを育てることを目指す。様々な人の立場に立ち、「よりよい社会であり続けるために自分にできることは何か」と、多角的に社会の在り方について考えることで、自分と社会のつながりを実感できる。そして、自ら社会の形成に関わっていく中で、社会の一員としての自覚を高めることもできると考える。

以上のことから、本校社会科部が目指す子ども像を次のように設定する。

持続可能な社会の在り方を考える子どもの育成

3 学習過程

単元全体を通した問題解決学習の基本的な学習過程は、次の通りである。

社会と出会う	社会が分かる	社会を考える
・単元学習を貫く問いについて話し合い、学習問題をつくる。 ・予想を立てる。	・資料や調査活動を基に、調べる。 ・学習問題をまとめる。	・再度、単元を貫く問いについて話し合い、持続可能な社会の在り方を考える。

4 方策

(1) 多角的な思考を促す「幸せの目」について

本校社会科部では、持続可能な社会の在り方を考える際の視点として、「幸せの目」を活用している（表1）。これは、Well-being（OECD）やSDGs（国連）などの持続可能な社会の実現に向けた指標の共通点から、七つの項目に焦点化したものである。全ての過程において、これらの視点を基に対話することで、持続可能な社会の在り方の考えを多角的に捉えることができるようにする（写真1）。

表1「幸せの目」

持続可能な社会の在り方を考える際の視点	
安 心	気に掛かることがなく、心が落ち着くこと。
健 康	怪我や病気の心配がなく、健康やかな体の状態のこと。
安 全	受容できない危険やリスクがないこと。
豊かさ	生産・分配・消費する行為における費用を適切に使うこと。
便 利	時間や労力が掛からず、効率的であること。
やりがい	物事に対する充足感や手応えがあること。
平 等	かたよりや差別がなく、皆が等しいこと。

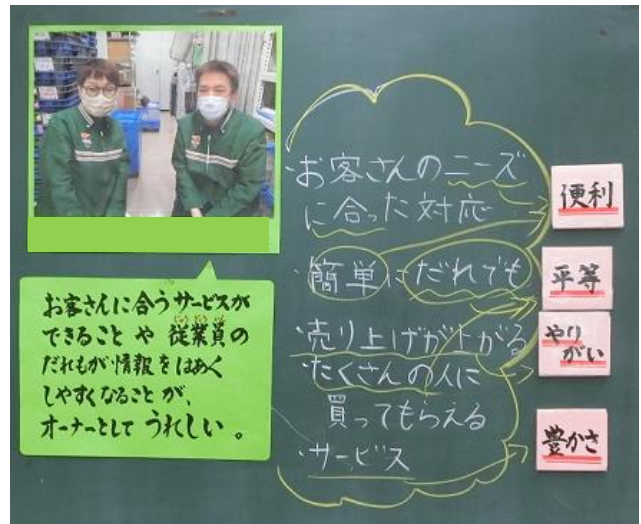


写真1「第5学年 情報を生かして発展する産業」

(2) 理解を深める「社会づくりの目」について

「社会づくりの目」とは、世の中の仕組みや人の営みを理解するために必要な分析的な視点のことである（表2）。「社会が分かる」過程において、この視点を基に対話することで、習得した具体的な知識を概念化し、社会の仕組みや人の営みについての理解を深めることができるようにする（写真2）。

表2「社会づくりの目」

世の中の仕組みや人の営みを理解するために必要な分析的視点
(例) 地形、気候、分布、変化、工夫、努力、願い、協力 など

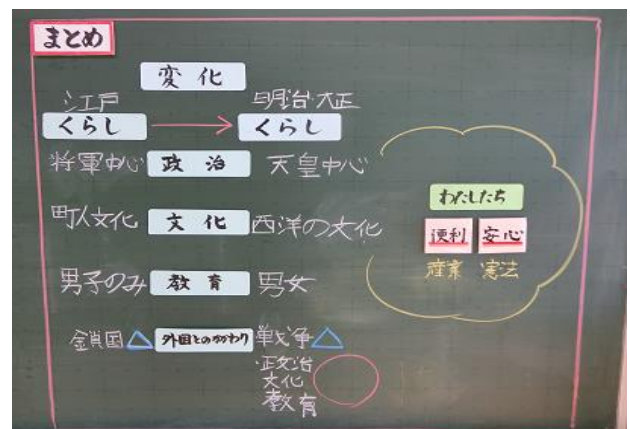


写真2「第6学年 明治の新しい国づくり」